

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>①開かれた学校づくり委員会やミニ集会を活用し、地域の教育的ニーズを把握し、学校経営に反映させることができた。地域との合同避難訓練では、保育園児を含めた約100名が参加し地域と連携した活動ができた。ホームページを活用した学校のPRが必要である。</p> <p>②職員一人一人との面接をとおして、職員の意見を聞くことができた。</p>	<p>①ロボットに関する出前授業や吹奏楽部のクリスマスコンサート、地域との合同避難訓練を引き続き行う。地域との連携の一層の充実を図り、生徒の活躍の機会の拡充を図る。保護者や地域住民に今まで以上に詳しく学校の様子を知ってもらうよう、充実したホームページへの改善を図っていく。</p> <p>②調和のとれた校務分掌による機能的な学校運営を行う。</p>
学習指導	<p>①授業が分かりやすいという評価が、生徒は77%、保護者は79%であった。家庭での予習・復習の習慣が依然として定着していない。</p> <p>②SPHで培ったことを活用して英語によるコミュニケーション力やプレゼンテーション力を指導し、3学期には全校における生徒研究発表を実施した。</p>	<p>①授業が分かりやすいという生徒の評価が、80%を超えるようにする。レポート作成など適切に課題を課し、家庭学習の習慣を育成する。</p> <p>②全校の生徒研究発表会の開催を定着させる。工業系高校人材育成コンソーシアム千葉で行う生徒研究発表会や千葉大学の高校生理学研究発表会への参加者を増やす。</p>
生徒指導	<p>①計画的に登下校、挨拶、服装・頭髪、自転車マナー等の指導を行った。近隣住民からの苦情も多少あり、生徒の体育、部活動、登下校における事故があった。</p> <p>②設定された面談週間以外にも、必要に応じ保護者と面談を行った。スクールカウンセラーと担任が密接に連携し、生徒のカウンセリングを行った。</p>	<p>①出席率と皆勤率の向上を目指す。定期的に登下校指導を行うとともに、生徒指導における安全を徹底し、生徒への安全指導を継続し事故の未然防止に努める。</p> <p>②教育相談体制の充実を図り、問題行動に発展する前に、その予兆を見つけ、問題の早期発見・早期解決に努める。また、特別支援教育の職員研修を実施する。</p>
キャリア教育	<p>①進路説明会を実施した。インターンシップは実施時期を夏に変更して3年目となったが、3年生の就職活動には効果が出ているようだ。</p> <p>②就職指導については予定どおり行った。全ての生徒が就職内定となった。進学では、2名が国立大学に決まっている。</p>	<p>①進路説明会を例年どおり行う。インターンシップの受入先の開拓を幅広く、積極的に行い、全生徒が参加できるようにする。</p> <p>②生徒の適性を考慮しながら3年間かけて計画的にキャリア教育を行う。引き続き、就職希望者の内定率100%を目指す。また、進学指導も充実させていく。</p>
特別活動	<p>①総合技術コンクールでは、優秀な成績を収めた。部活動については運動部だけではなく、文化系の活躍も目立った。</p> <p>②道徳教育推進教師を中心に、計画どおりに道徳の授業を行った。</p>	<p>①引き続き部活動の活性化を図り、各大会の千葉県大会で優勝を目指し、全国大会への出場を実現していく。</p> <p>②道徳教育推進教師を中心に、生徒の実態に即した指導案を作成し学校全体で取り組む。</p>
特色ある教育活動	<p>①SPH事業が3年目となり、将来の産業界を担う専門的職業人の育成を目指し、大学・企業等と積極的に連携した。工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の事務局として産官学の連携を進めた。</p> <p>②姉妹校協定を結んだ台湾の臺中市立東勢工業高級中等学校との交流事業に生徒6名が参加した。千葉大学、メロス言語学院の台湾人留学生との交流も実施した。</p>	<p>①3年間のSPH事業で培ったことや、工業系高校人材育成コンソーシアム千葉を活用し、産官学の連携を一層進める。</p> <p>②臺中市立東勢工業高級中等学校(台湾)との姉妹校交流や千葉大学、メロス言語学院の留学生との交流を通し、技術者としての国際感覚を養わせるとともに、国際教養を身に付けさせる。</p>